

Pioneer sound.vision.soul

第61期 中間報告書

平成18年4月1日から平成18年9月30日まで



株主の皆様へ

カーエレクトロニクス事業の強化と ホームエレクトロニクス事業の改善によって、業績回復を目指します。

第61期中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当中間期における連結営業収入は、DVDレコーダーの売上は減少しましたが、プラズマディスプレイやカーナビゲーションシステムの売上増や円安の影響により、前年同期に比べ12.2%増収の3,803億19百万円となりました。

営業損益は、売上が増加したことに加え、前期から実施している事業構造改革による販売費及び一般管理費の減少、および円安の効果により、前年同期の166億64百万円の損失に対し、当中間期は116億91百万円の利益となりました。当期純損益については、前年同期は事業構造改革に関連して、生産設備の減損、持分法投資損、繰延税金に対する評価性引当金を計上し580億44百万円の純損失となりましたが、当中間期は、これらの計上がなかったことに加え、電子部品事業子会社の売却益を計上したことから92億8百万円の純利益となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株につき5円とさせていただきます。

当社は、新たな数値目標として、平成21年3月期の連結営業収入を9,500億円、営業利益を300億円以上とすることを掲げました。なお、カーエレクトロニクス事業については営業利益率を7%以上に、収益性の厳しいホームエレクトロニクス事業については営業損益をブレイクイーブンレベルに改善することを目標としております。

この目標を達成するために、カーエレクトロニクス事業への経営資源の配分を強化し、市販市場でのトップポジションを維持するとともに、OEMを一層拡大させることで事業全体の収益拡大を目指します。また、今後の事業拡大に対応するため、タイや中国における生産能力の増強を進めてまいります。ホームエレクトロニクス事業においては、プラズマディスプレイを中心に、画質、デザイン、使いやすさ、品質、音へのこだわり等において新しい顧客価値を提供し、ブランドイメージの向上に努めるとともに、利益性を考慮した製品の取捨選択を行うことで、収益を改善してまいります。

当社を取り巻く経営環境は、主要製品の価格競争が依然として続いており、非常に厳しいものとなっておりますが、今後も、カーエレクトロニクス事業の収益の拡大と、ホームエレクトロニクス事業での一日も早い利益性の改善を念頭に置き、業績回復に邁進してまいります。



まず、プラズマディスプレイ事業については、コストダウンを継続して行うとともに、今後見込まれる需要の拡大に対応するべく生産能力の増強を検討しております。これにあたっては、既存プラントのスクラップアンドビルドや他社との提携による投資など、あらゆる可能性についての検討を進めてまいります。また、HD(高精細)放送やブルーレイディスクなどのHDコンテンツが世界的に普及することで、高精細パネルの需要が高まると予測されるため、当社は、パネル技術面での優位性を活かし、高画質のプラズマディスプレイを訴求してまいります。

光ディスク事業については、DVD製品に加え、次世代規格であるブルーレイディスクに関連する製品にも注力してまいります。DVD製品は、市場が成長している一方で、価格が急速に下落しております。当社は、中国生産や他社との協力関係の中でコストダウンを図るとともに、主要部品の外販により開発投資効率を高めてまいります。また、すでに開発の中心をブルーレイディスク製品に移しており、新たな付加価値の提案を行うことで収益性の改善を図ってまいります。

なお、ホームエレクトロニクス事業においては、プラズマディスプレイとその他のAV製品との相乗効果を引き出すため、企画・開発・設計部門を集結させるべく、神奈川県川崎市に新事業所を建設中であり、平成19年春に完成の予定です。

連結決算ハイライト

	第61期中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	第60期中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前年同期比
営業収入	380,319	339,084	112.2%
営業利益(△損失)	11,691	△16,664	—
継続事業税引前利益(△損失)	12,624	△44,153	—
当期純利益(△損失)	9,208	△58,044	—
			増減
総資産	688,150	699,053	△10,903
純資産	282,758	281,260	1,498

注) 営業損益は、営業収入から売上原価・販売費及び一般管理費を控除した金額を、参考として記載しています。

カーエレクトロニクス事業については、市販市場では、カーオーディオ製品のトップポジションを維持するべく、急拡大している中米やロシアなどの市場に注力してまいります。また、新しい価値や機能を提案し、他社と差別化した製品を提供してまいります。市販カーナビゲーションシステムに関しては、高い評価を得ている国内市場をはじめとして、欧米での事業展開をさらに積極的に進めてまいります。また、製品の進化とともに増大するソフト開発コストを抑えるため、開発プロセスの改革や共用化・共有化をさらに進めてまいります。OEMについては、カーオーディオ製品では、市販市場での強みを活かして、事業拡大を目指してまいります。カーナビゲーションシステムでは、国内で拡大しているディーラー純正市場への取り組みを強化するとともに、市販市場での製品企画力や地図コンテンツ制作をグループ内で行っているという強みを活かして新たな提案を行うことで、新規の受注獲得を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成18年12月

代表取締役社長

須藤 民彦

連結決算の概況

ホームエレクトロニクス

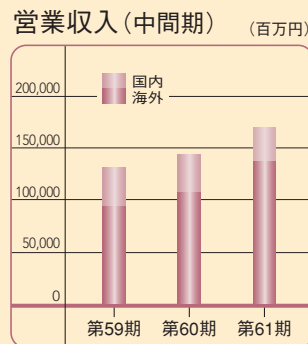
売上は、前年同期に比べ17.8%増収の1,707億52百万円となりました。プラズマディスプレイは、OEMの売上は減少しましたが、自社ブランドが欧米で好調に推移したことにより、約18%の増収となりました。なお、ホームエレクトロニクスの売上に占めるプラズマディスプレイの構成比は約47%となりました。また、DVDレコーダーの売上は減少しましたが、DVDドライブの売上は増加しました。

国内外別の内訳は、国内は9.6%減収の326億2百万円、海外は26.9%増収の1,381億50百万円となりました。

営業損失は、前年同期の254億98百万円の損失から縮小し、42億45百万円の損失となりました。これは、売上の増加に加え、事業構造改革の効果や、コスト管理の徹底および生産効率の向上などによりプラズマディスプレイを中心に原価率が改善したことによるものです。

主要製品

- ・プラズマディスプレイ
- ・DVDレコーダー
- ・DVDプレーヤー
- ・DVDドライブ
- ・ステレオシステム
- ・ステレオコンポーネント
- ・DJ機器
- ・電話機
- ・CATV関連機器



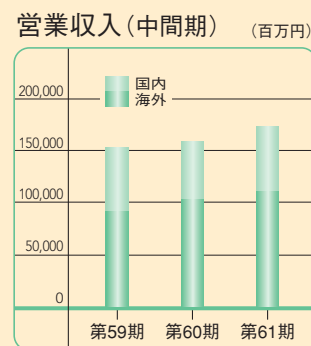
カーエレクトロニクス

売上は、カーナビゲーションシステムとカーオーディオ製品の売上がともに増加したことにより、前年同期に比べ9.1%増収の1,749億70百万円となりました。カーナビゲーションシステムについては、国内の市販市場向けが引き続き好調に推移したうえ、北米におけるOEMの売上も増加しました。カーオーディオ製品については、市販市場向けは国内で減少したものの、中南米や欧州で増加し、OEMは国

内で売上が増加しました。なお、カーエレクトロニクスの売上に占めるOEMの構成比は約34%となりました。

国内外別の内訳は、国内は11.9%増収の628億82百万円、海外は7.6%増収の1,120億88百万円となりました。

営業利益は、売上の増加や生産拠点の統廃合による経費削減などにより、前年同期に比べ59.8%増加し、131億18百万円となりました。



その他

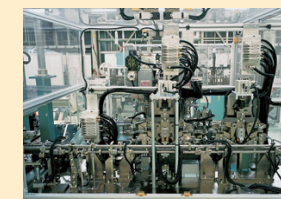
売上は、国内においてFA(ファクトリーオートメーション)機器の売上が増加したことから、前年同期に比べ15.3%増収の328億36百万円となりました。

国内外別の内訳は、国内は41.8%増収の212億93百万円、海外は14.3%減収の115億43百万円となりました。

営業損益については、売上の増加や事業構造改革による有機ELディスプレイの損益改善などにより、前年同期の16億66百万円の損失から28億4百万円の利益となりました。

主要製品

- ・有機ELディスプレイ
- ・FA機器
- ・電子部品
- ・業務用AVシステム



FA機器

特許関連

特許料収入は、光ディスクに関する一部の特許権の期間が満了したことから、前年同期に比べ66.7%減収の17億61百万円となりました。

営業利益は、前年同期に比べ75.5%減益の9億74百万円となりました。

- ・光ディスク関連特許の使用許諾

主要製品

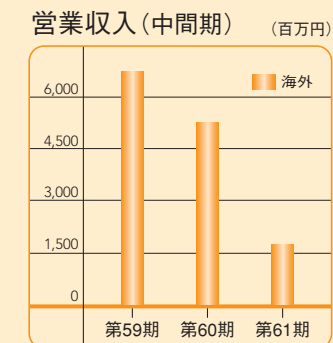
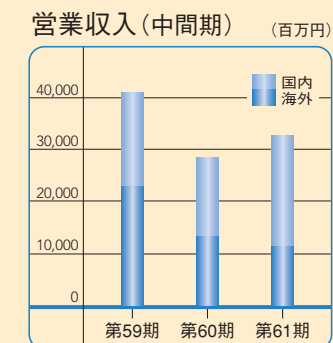
- ・カーナビゲーションシステム
- ・カーステレオ
- ・カーAVシステム
- ・カースピーカー



カーナビゲーションシステム 国内モデル “サイバーナビ”



カーオーディオ 中南米モデル



良き企業市民として・・・

企業理念「より多くの人と、感動を」を実現するために、パイオニアグループおよびそのすべての役員・従業員は、常に時代を拓く市場創造の先駆者であり続けるとともに、高い倫理観のもと、「良き企業市民」として社会から信用と尊敬を得ることをめざして、企業活動を推進します。

環境保護活動

私たちは、「地球はもうひとりのお客様」という考えのもと、消費電力の削減や無鉛はんだの使用など、環境に配慮した製品の設計や生産、環境に配慮された資材や物品を優先的に購入する「グリーン購入」など、様々な活動を推進しています。本年2月にはグリーン購入大賞の経済産業大臣賞を受賞しました。



パイオニア環境マークは、「地球」「環境」「共生」をイメージしています。

ピュアモルトスピーカー

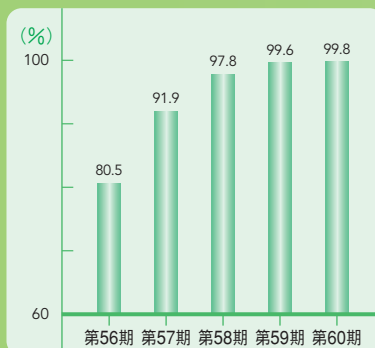
サントリー株式会社とのコラボレーションにより、ウイスキーの醸造用樽材をスピーカーキャビネットとして蘇らせた、ピュアモルトスピーカーシリーズの新製品「S-PM300」を発売しました。ピュアモルトスピーカーは、資源のリサイクルという側面だけではなく、伐採直後の新材では再現できない暖かみのあるやわらかな音も生み出します。また、売上の一部は社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」へ寄付し、未来の森林づくりにも協力しています。



S-PM300

廃棄物ゼロエミッションを達成

リサイクル率(国内)の推移



(当社では、リサイクル率99%超を廃棄物ゼロエミッションと定義しています。)

工場が発生する廃棄物をすべてリサイクルする、廃棄物ゼロエミッション活動を全世界で進めています。廃棄物発生量の削減や発生した廃棄物の分別の徹底、リサイクル方法の検討など、数々の努力により、前期には国内において、生産系関係会社14社を含む全20事業所で廃棄物ゼロエミッションを達成しています。

パイオニアの森

環境に配慮した製品作りを行っている当社は、木材を使ったスピーカーで音楽を楽しんでいる森を「パイオニアの森」と名づけ、森林保全に協力しています。森も、ボランティアの社員とその家族によって、明るく緑あふれる「パイオニア

の森」へと生まれ変わっています。



からだ 身体で聴こう音楽会

「耳の不自由な方にも音楽を楽しんでもらいたい。」その想いを胸に創業者の松本望が開発した体感音響システムを使って、聴覚に障害がある方も音楽を楽しめる「身体で聴こう音楽会」を毎月1回、定期的に開催しています。平成4年から始まったこの音楽会は、社員とその家族によるボランティアによって運営され、当社本社のロビーをコンサート会場に、バラエティに富んだプログラムで行われています。最近では、開催場所を日本各地、そしてシンガポールへと広げ、さらに多くの方々と音楽を楽しむ取り組みを続けています。



ものづくり教室

当社の持つ技術やものづくりの楽しさを次の世代に伝えるために、教育支援活動を積極的に行っています。その一環として、小学生向けに、紙製のスピーカーやDVDプレーヤーを組み立てる、ものづくり教室を開催しています。自分で作ったスピーカーから音が出たときの喜びや、初めて組み立てたDVDプレーヤーから映像が映し出されたときの驚きなど、参加者は豊かに感情を表しながら、ものづくりの楽しさを味わっています。



社会貢献活動

パイオニア ファン・ストリート —— 当社の製品や活動をご紹介します。

ハイビジョン スグレコ

ハイビジョン放送などの高精細コンテンツを高画質、高音質で味わっていただきたいというDVDレコーダーへのこだわりが、増設HDDというひとつの答えを生み出しました。HDDを増設することにより、録画時間の制限から解放され、良質なエンタテインメントを存分に楽しむことができます。

pioneer.jp/dvd/



アフターサービス満足度 2年連続No.1

日経BP社および日経BPコンサルティング社による「2006年版アフターサービス満足度ランキング」で、薄型テレビ部門、DVDレコーダー部門の2部門において、満足度No.1に輝きました。ともに、2年連続の栄誉となります。当社サービス部門では、お問い合わせや修理の依頼に対して、スピード対応など「お客様満足度No.1のサービス提供」を常に心がけ、お客様から高い評価をいただいています。今後とも、より安心して製品を購入していただけるよう、さらに万全なサービス体制を確立していきます。



PDP-427HXD



画面はハメコミ合成です。

PURE vision

シリーズ最大級となる60V型「PDP-607HX」と美しいフレームデザインの「PDP-427HXD」、プラズマテレビ“ピュアビジョン”に新製品が加わりました。深遠で引き締まった黒を再現する高画質パネル、映像の美しさを引き出すデジタル映像処理技術、そしてオーディオで培ってきた高音質技術、これら数々の最新テクノロジーによって、高品位な映像美をお届けします。

pioneer.jp/pdp/

スピーカー EXシリーズ

パイオニアブランドの最高峰スピーカーである“EXシリーズ”は、世界中で高い評価をいただいています。この“EXシリーズ”は、70年前にパイオニアの原点であるダイナミックスピーカー「A-8」を開発して以来蓄えてきた豊富な経験と知識のすべてを投入して開発しています。今秋には、200台完全限定生産の最上位モデル「S-1EX-LTD」を国内で発売しました。

pioneer.jp/components/



S-1EX-LTD

パイオニア目黒店

パイオニア目黒店では、製品の魅力を心ゆくまで体感できるだけでなく、その場でホームエレクトロニクス製品を購入することもできます。また、タイプの異なる3つのホームシアタールームを備えるほか、AVセミナーを定期的開催するなど、製品の新しい楽しみ方の提案も行っています。同時に、ショッピングサイト「パイオニアオンライン」(<http://www3.pioneer.co.jp/online/>)も開設し、より多くの方々に当社製品の素晴らしさを知っていただけるように努めています。

pioneer.jp/corp/showroom/

Raku-Navi



「高性能をカンタンに」をコンセプトにした“楽ナビ”が、ボディカラーを新たに登場しました。従来から高い評価を得ている地図表示やルート探索などの基本機能をさらに向上させたうえ、地上デジタルTVチューナーを標準装備した機種も揃えました。行きたいときに、行きたい場所へ、自由にストレスなく行けること。あなたが、ラクであるために生まれた技術、“HUMANラクノロジー”が、この“楽ナビ”には満載です。

carrozzeria.jp/rakunavi/



AVIC-HRZ99

HEED冷陰極HARP撮像板

NHKと共同で昨年開発した小型で超高感度の撮像デバイス「HEED冷陰極HARP撮像板」のさらなる高解像度化に成功しました。「HEED冷陰極HARP撮像板」は、当社独自の電子放出素子であるHEEDと、NHKが中心となって開発した、光を電荷に変換するHARP膜の組み合わせによって産まれた新しい技術です。今回、その高解像度化に成功したことにより、夜間でも照明なしで鮮やかなカラー撮影ができる省電力のテレビ用小型超高感度カメラの実用化に向けて大きく前進しました。今後は、ハンディビデオカメラや車載用暗視カメラ、防犯用監視カメラなどへの応用と早期実用化を目指していきます。



連結財務諸表(米国会計基準)

連結貸借対照表

資産の部	第61期中間期 (平成18年9月30日現在)	第60期中間期 (平成17年9月30日現在)
流動資産		
現金及び現金同等物	109,822	107,198
受取手形及び売掛金	119,106	126,981
棚卸資産	139,030	126,594
その他の流動資産	70,826	73,878
計	438,784	434,651
投資及び長期債権	27,795	25,268
有形固定資産	159,857	171,893
無形固定資産	19,482	22,723
その他の資産	42,232	44,518
資産合計	688,150	699,053

(注)

1. 当中間期末の連結子会社は118社、持分法適用会社は3社です。

(単位：百万円)

負債及び資本の部	第61期中間期 (平成18年9月30日現在)	第60期中間期 (平成17年9月30日現在)
流動負債		
短期借入金	40,270	55,560
買掛金	120,322	104,831
その他の流動負債	116,351	122,463
計	276,943	282,854
長期債務	89,225	79,512
その他の固定負債	25,168	41,225
少数株主持分	14,056	14,202
資本		
資本金	49,049	49,049
資本剰余金	82,959	82,834
利益剰余金	182,162	201,204
その他の包括損失累計額	△18,964	△39,390
自己株式	△12,448	△12,437
計	282,758	281,260
負債及び資本合計	688,150	699,053

2. 当社の連結損益計算書は、営業損益などの小計を示さずに総収益から総費用を控除して税引前損益を表す、単純計算方式により作成しています。

連結損益計算書

	第61期中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	第60期中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
収益		
売上高	378,558	333,799
特許料収入	1,761	5,285
営業収入計	380,319	339,084
受取利息	2,085	1,251
固定資産売却益	1,288	—
その他の収益	528	6,055
計	384,220	346,390
売上原価及び費用		
売上原価	283,384	269,201
販売費及び一般管理費	85,244	86,547
支払利息	616	720
固定資産除売却損	591	443
その他の費用	1,761	33,632
計	371,596	390,543
継続事業税引前利益(△損失)	12,624	△44,153
法人税等	6,214	△6,935
少数株主損益	1	4,169
持分法による投資損益	22	△25,158
継続事業当期純利益(△損失)	6,433	△58,207
非継続事業損益(税効果後)	2,775	163
当期純利益(△損失)	9,208	△58,044

3. 前期においてCATVソフトウェア開発子会社を、当中間期において電子部品事業子会社を売却しました。これに伴い、これらの子会社に係る営業成績および売却益を、連結損益計算書上、非継続事業損益として独立表示しています。前年同期の連結損益計算書についても組替表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

	第61期中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	第60期中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
当期純利益(△損失)	9,208	△58,044
減価償却費及び償却費	18,500	24,122
受取手形及び売掛金の減少(△増加)額	△9,965	7,160
棚卸資産の増加額	△32,687	△14,635
買掛金の増加額	17,184	8,016
未払法人税等・未払人件費・その他の未払費用の増加(△減少)額	△7,866	2,737
その他	△4,229	31,864
営業活動によりもたらされた(△使用された)キャッシュ(純額)	△9,855	1,220
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△20,477	△19,282
非継続事業の売却による手取金	10,862	—
その他	1,857	7,357
投資活動に使用されたキャッシュ(純額)	△7,758	△11,925
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金及び長期債務の増減	7,198	2,866
配当金の支払	△436	△2,180
その他	△1,727	△2,073
財務活動によりもたらされた(△使用された)キャッシュ(純額)	5,035	△1,387
現金及び現金同等物の換算差額	720	2,609
現金及び現金同等物の純減少額	△11,858	△9,483
現金及び現金同等物の期首残高	121,680	116,681
現金及び現金同等物の期末残高	109,822	107,198

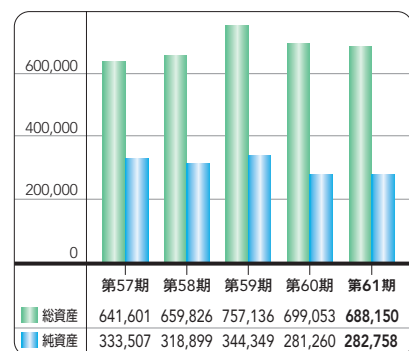
連結財務諸表 (米国会計基準)

連結資本勘定計算書

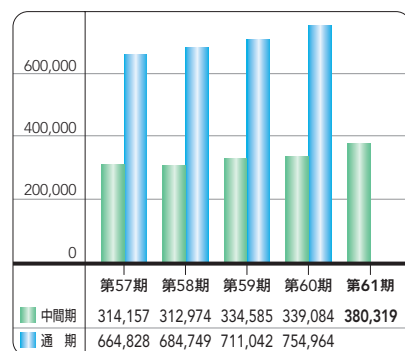
(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の包括損失累計額	自己株式	資本の部計
平成17年3月31日現在	49,049	82,735	260,556	△47,669	△12,432	332,239
当期純損失			△84,986			△84,986
その他の包括利益				27,577		27,577
新株予約権の付与		175				175
配当金(10円00銭/株)			△1,744			△1,744
自己株式の取得・売却					△11	△11
平成18年3月31日現在	49,049	82,910	173,826	△20,092	△12,443	273,250
当期純利益			9,208			9,208
その他の包括利益				1,128		1,128
新株予約権の付与		49				49
配当金(5円00銭/株)			△872			△872
自己株式の取得・売却					△5	△5
平成18年9月30日現在	49,049	82,959	182,162	△18,964	△12,448	282,758

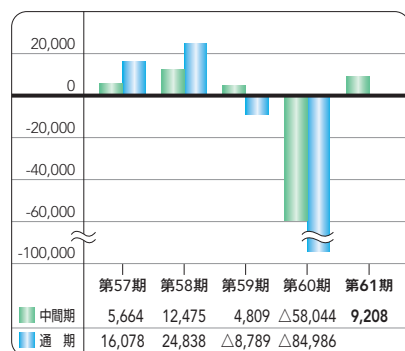
総資産/純資産の推移 (百万円:いずれも中間期末)



営業収入の推移 (百万円)



当期純利益の推移 (百万円)



単独財務諸表ハイライト

貸借対照表

(単位：百万円)

	第61期中間期 (平成18年9月30日現在)	第60期中間期 (平成17年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	177,373	152,832
固定資産	285,454	280,559
有形固定資産	56,273	52,674
無形固定資産	28,366	28,523
投資その他の資産	200,814	199,361
資産合計	462,827	433,392
負債の部		
流動負債	172,091	106,649
固定負債	71,860	73,279
負債合計	243,951	179,929
純資産(資本)の部		
株主資本	212,834	248,400
資本金	49,048	49,048
資本剰余金	81,315	81,315
利益剰余金	94,920	130,474
自己株式	△12,449	△12,437
評価・換算差額等	6,041	5,062
その他有価証券評価差額金	6,288	5,062
繰延ヘッジ損益	△247	—
純資産(資本)合計	218,876	253,463
負債及び純資産(資本)合計	462,827	433,392

損益計算書

(単位：百万円)

	第61期中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	第60期中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)
売上高	270,886	245,819
売上原価	234,989	213,720
販売費及び一般管理費	41,825	41,592
営業利益(△損失)	△5,928	△9,493
営業外収益	1,375	826
営業外費用	950	772
経常利益(△損失)	△5,503	△9,439
特別利益	5,246	567
特別損失	865	210
税引前中間純利益(△損失)	△1,122	△9,081
中間純利益(△損失)	△813	△14,761
前期繰越利益	—	2,163
中間未処分利益(△未処理損失)	—	△12,597

株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

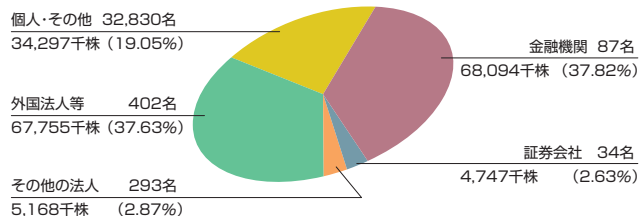
	株主資本				合計	評価・換算差額等		合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益		
平成18年3月31日現在	49,048	81,315	96,169	△12,442	214,090	7,409	—	7,409	221,500
剰余金の配当			△436		△436			—	△436
中間純利益(△損失)			△813		△813			—	△813
自己株式の処分		0		0	0			—	0
自己株式の取得				△7	△7			—	△7
株主資本以外の中間会計 期間中の変動額(純額)					—	△1,120	△247	△1,368	△1,368
平成18年9月30日現在	49,048	81,315	94,920	△12,449	212,834	6,288	△247	6,041	218,876

株式の状況 (平成18年9月30日現在)

発行済株式総数 180,063,836株
(注) 5,645,131株の自己株式を含んでいます。

株主総数 33,646名

所有者別分布状況



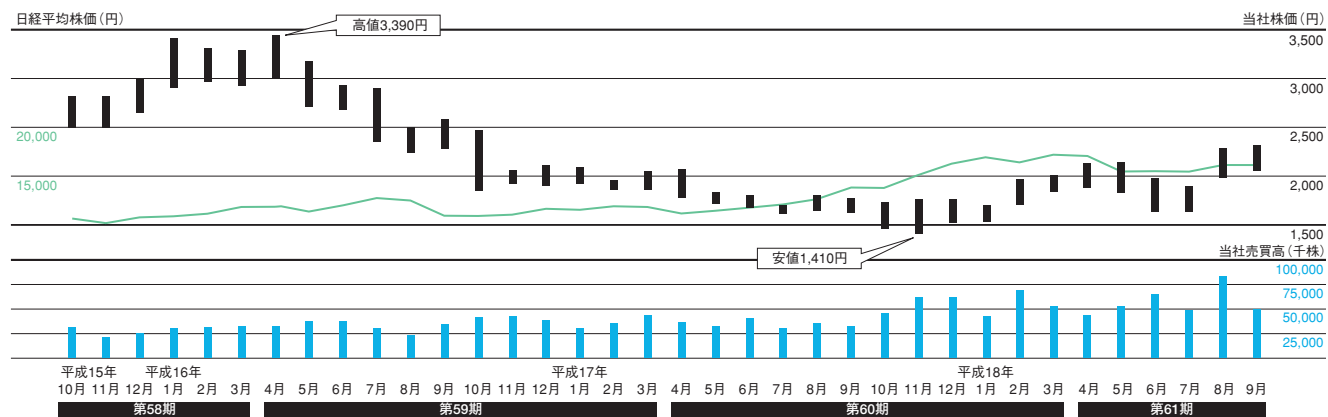
(注) 1. 百分率は、平成18年9月30日現在の発行済株式総数に対する持株比率です。
2. 「個人・その他」には、自己株式5,645千株を含んでいます。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,600千株	7.55%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,727	7.06
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,490	3.60
ドイツバンクアーゲーロンドンビービーアイリッシュレジデント619	4,690	2.60
ドイツバンクアーゲーロンドン610	4,662	2.58
株式会社みずほ銀行	4,000	2.22
ドイツバンクアーゲーロンドンビービーノトリティークライアント613	3,965	2.20
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口	3,955	2.19
再信託受託者資産管理サービス信託	3,245	1.80
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,245	1.80
ゴールドマンサックスインターナショナル	2,843	1.57

(注) 当社は自己株式を5,645千株保有しています。

株価および売買高



(注) 株価および売買高は東京証券取引所におけるものです。

役員 (平成18年9月30日現在)

* 取締役社長 須藤 民彦
* 専務取締役 石塚 肇
専務取締役 山田 宰
常務取締役 松本 智
波江野 章
安田 信治
取締役 石川 達紘
佐藤 俊一
常勤監査役 小柴 誠
監査役 森谷伊三男
錦戸 景一

*印は代表取締役です。

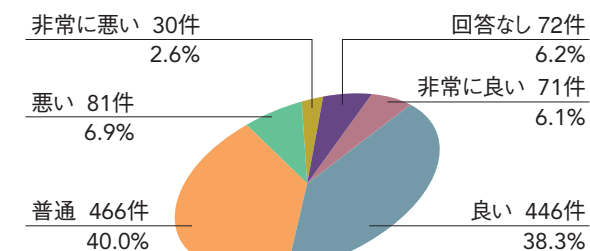
常務執行役員 河端 政夫
谷山 吉男
岡安 秀喜
西川 文太郎
佐藤 陽一
執行役員 松村 純孝
佐藤 謙二
小谷 進
羽賀 勉
佐藤 馨
山内 慶一
栗山 和己
伊藤 敏行
竹内 立男
黒崎 正謙

株主の皆様へのアンケート 集計結果のご報告

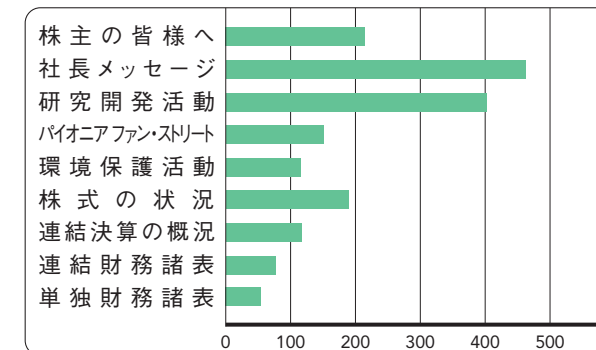
第60期事業報告書において、株主の皆様へのアンケートを実施いたしましたところ、多数のご回答をいただきました。以下に、集計結果の概要をご報告いたします。

第60期事業報告書について

全体の評価



特に良かった記事 (複数回答)



「今後取り上げてほしい事柄やテーマ」としては、今後の展望(54件)、研究開発(50件)、製品紹介(40件)、各事業の現在と今後(39件)、株主還元策(24件)、業績回復策(23件)などがございました。

また、アンケートへのご回答とならび、当社に対する貴重なご意見や激励のお言葉をいただいたことにつきまして、厚く御礼を申し上げます。今後とも当社へのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

シンプルでインパクトのある“楽ナビ”の広告が、雑誌や駅、街の中など様々な場所に登場しています。11月上旬からは、テレビコマーシャルも開始され、“楽ナビ”のサイト内でもコマーシャルの映像やその撮影風景をご紹介します。
carrozeria.jp/rakunavi/

どうしてラクダが出演?

「砂漠の舟」と呼ばれ、砂漠生活を知り尽くしたラクダ。自動車が導入されるまで砂漠で自由に移動するには欠かせない存在でした。それは、自由気ままなカーライフを可能にする“楽ナビ”に通じるものです。ラクダと“楽ナビ”には、単なる言葉遊びではない深い関連があるのです。

これはラクダ

あなたが、ラクダであるために生まれた技術。行きたいときに、行きたい場所へ、自由にストレスなく行けること。楽早く、楽速に、楽持ちの車に。きっと毎日、もっと楽しくなる。ラクダで、ラクに行きましょう。

HUMANテクノロジー
Raku-Nav
地デジナビも登場

carrozeria

パイオニア株式会社

会社の概要 (平成18年9月30日現在)

商号	パイオニア株式会社 PIONEER CORPORATION
本社	東京都目黒区目黒1丁目4番1号 (〒153-8654) 電話 (03) 3494-1111 (大代表)
創業	昭和13年1月1日
設立	昭和22年5月8日
資本金	490億4,850万3,230円
従業員数	5,032名 (単独) 36,919名 (連結)
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社

- 単元未満株式の買取・買増など、株式に関するお手続きについては、下記にお問合せ下さい。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
電話 0120-232-711
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)
0120-244-479
(お手續用紙のご請求専用) (24時間受付)
ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上記の他、三菱UFJ信託銀行株式会社の本支店および野村證券株式会社の本支店でお手続きできます。

- 株券の保管振替制度をご利用の方は、お取引のある証券会社にお問い合わせ下さい。

ホームページのご案内

<http://pioneer.jp>

(投資家情報 <http://pioneer.jp/ir/>)

当社へのお問い合わせは下記にて承っています。
経理部 証券業務グループ
電話 (03)3495-4926
E-mail : pioneer_shr@post.pioneer.co.jp

パイオニアはチーム・マイナス6%に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



当事業報告書は再生紙と大豆油インキを使用しています。